

氏名： 棚橋 訓 (TANAHASHI Satoshi)
所属： 人間文化創成科学研究科人間科学系
職名： 教授
学位： 博士 (2002 年 2 月、東京都立大学) / Ph.D. in Social Anthropology, Tokyo Metropolitan University, 2002.
専門分野： 文化人類学、社会人類学、歴史人類学、
オセアニア地域研究、ジェンダー・セクシュアリティ研究
E-mail： tanahashi.satoshi@ocha.ac.jp

◆研究キーワード / Keywords

文化人類学／歴史人類学／オセアニア地域研究／ジェンダー・セクシュアリティ研究／文化景観論
Cultural Anthropology / Historical Anthropology / Oceanic Studies / Gender and Sexuality Studies /
Cultural Landscape Studies

◆主要業績

総数 (12) 件

- ・『文化人類学事典』(日本文化人類学会編, 棚橋訓編集幹事), 東京: 丸善, 864p., 2009 年 1 月
- ・「ストリートとストリーム—ポリネシアでストリート現象を考えるための覚書」, 関根康正 (編) 『ストリート
の人類学 (下巻)』(国立民族学博物館 Senri Ethnological Report No.81), 大阪: 国立民族学博物館, pp.261-
269., 2009 年 3 月.
- ・「聖恩の景観史—マーシャル諸島にみる軍政期南洋群島統治の一断面」, 日本オセアニア学会 (編) 『オセア
ニア学』, 京都: 京都大学学術出版会, 印刷中.
- ・「植民地主義との邂逅」, 片山一道・熊谷圭知 (編) 『新世界地理—大地と人の物語—第 15 巻オセアニア』, 東京:
朝倉書店, 印刷中.

◆研究内容 / Research Pursuits

2008 年度は科学研究費補助金の研究分担者として (1)「オセアニア環境景観の考古学的・歴史人類学的総合研究とその現在的活用策の検討」(基盤 (B) 海外) と (2)「サンゴ礁—人間共生系の景観史」(新学術領域研究 (研究領域提案型)) の 2 件、同連携研究者として (3)「ローカル・センシティブな「開発とジェンダー」研究の構築をめざして」(基盤 (B)) と (4)「トランスナショナリズムと「ストリート現象」の人類学的研究」(基盤 (A) 海外) の 2 件、環境省地球環境研究総合推進費 (全球システム変動分野) の研究分担者として「環礁上に成立する小島嶼国の地形変化と水資源変化に対する適応策に関する研究」の 1 件、計 5 件の資金を得て、ミクロネシアのマーシャル諸島、同ポーンペイ、八重山諸島石垣島において臨地調査を実施した。また、東京外国語大学アジアアフリカ言語文化研究所、日本貿易振興機構アジア経済研究所、国立民族学博物館、成城大学民俗学研究所の各機関の共同研究員として 6 件の共同研究に携わり、8 件の学会研究発表等を実施した。

During the academic year of 2008, I conducted field researches in Marshall Islands and Ishigaki of Yaeyama Islands with three JSPS grants, one MEXT grant and one Japanese Ministry of Environment grant. Research topics under the grants were as follows: (1) Archaeological and Historico-anthropological Studies on Oceanic Atoll Landscape Formations, (2) Landscape History of Coral Reefs-Human Symbiosis, (3) Construction of Locally-sensitive Gender and Development Studies, (4) Anthropological Studies on Transnationalism and Street-phenomena, and (5) Research on Sustainable Land and Water Resource Management in Atoll Island Countries. I was also appointed as the affiliated/visiting researcher of the following institutions: Tokyo University of Foreign Studies ILCAA, JETRO IDC, National Museum of Ethnology, and Seijo University Institute of Folklore Studies.

◆教育内容 / Educational Pursuits

学部において「文化人類学(基礎講義)」「文化と環境8」「人間と発達」「教育科学研究指導Ⅰ・Ⅱ」「文化人類学概論」「文化人類学演習」等の授業を、大学院において「ジェンダー文化論」「ジェンダー文化論演習」「開発・ジェンダー論特論」「比較文化ジェンダー論」等の授業と研究論文指導を実施した。併せて大学院博士後期ジェンダー学際研究専攻院生を対象に実践スキル開拓のための「Professional Clinic」を自主講座として実施した。また、放送大学客員教授、慶應義塾大学・成城大学・聖心女子大学・和洋女子大学の非常勤講師として文化人類学分野の教育と研究指導を実施した。

For the academic year of 2008, I gave the lectures, seminars, directed-reading courses for both undergraduate and graduate programs at Ochanomizu University. List of the courses I offered were as follows: Cultural Anthropology, Culture and Environment, Introduction to Cultural Anthropology, Seminars on Cultural Anthropology, Introduction to Educational Sciences, Gender and Culture, Special Studies on Gender and Culture, Comparative Studies in Gender and Culture. As a visiting professor of the University of the Air, I was in charge of an introductory TV lecture series of cultural anthropology which has been on the air since April, 2007. I also gave undergraduate-level lecture series on different topics of cultural anthropology for the universities of Keio, Seijo, Sacred Heart, and Wayo.

◆研究計画

2007年度から、サンゴ礁学、自然地理学、地形学、考古学、形質人類学、海洋生態学、海洋工学、リモートセンシングの各分野の研究者との共同によるオセアニア環礁の地球温暖化適応策の総合的研究を開始した。2008年度から文部科学省科研費(新学術領域研究)「サンゴ礁学」にも参画して当該分野での次世代の育成にも取り組んでいる。今後は、文化人類学の立場から、オセアニア島嶼諸国や国内小島嶼域の地球温暖化対策と国土保全・景観分析の分野での実践的な適応策をめぐる政策提言を視野に入れた、地球貢献型の研究を一層推進していく計画である。また、ジェンダー・セクシュアリティ研究においては、公衆衛生学、疫学、社会学の各専門分野の研究者たちと HIV/AIDS の予防医学的な総合研究の始動を企画しており、文化人類学の新たな実践的貢献の可能性を切り拓きたいと考えている。

◆メッセージ

私は文化人類学の視点と方法から現代世界の様々な問題群を実証的に分析・理解して、その成果を現代社会に還元することを目指して研究を続けています。フィールドワーク(現地での実態調査)によって人間の多様性をこまやかに捉えつつ、その背後にある普遍的課題に目を向けていくのが文化人類学という分野の特徴です。文化人類学では「多様性に向き合う眼」と世界をつなぐ「外向と共生の思考」を核に、研究を進めていきます。多くの受験生のかたがたにとって、文化人類学は、あまり耳にしたことのない未知の分野だと思いますが、お茶大に入学の際には、是非ともこの未知の分野に積極的に分け入り、現代世界を見る新たな眼(芽)を手に入れて頂きたいと思います。

環礁州島からなる島嶼国の持続可能な国土の維持に関する研究

